

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2290400080		
法人名	医療法人財団 百葉の会		
事業所名	グループホームわかば (1階ユニット)		
所在地	静岡県伊東市岡1293-3		
自己評価作成日	令和2年10月20日	評価結果市町村受理日	令和3年3月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kanitrue&JigyosyoCd=2290400080-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和2年10月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

デイサービス・居宅が併設している為、連携が取りやすい。
今年度は、コロナウイルス対策でデイサービスとの行き来は控えているが、イベント等は合同で企画している。デイサービス所属の栄養士も在中しているので、食事面でのサポートも強い。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

伊東市では居宅介護支援事業所、デイサービス、グループホームの併設施設がなく、其々の特色を生かした支援ができること、それらの連携が図られていることは貴重です。3事業所の協同事業である「認知症カフェ」は伊東市の広報にも紹介され、高齢者福祉課職員もプライベートで立ち寄ってくださり、栄養士の手作り洋菓子と所長の洪い蛇味線演奏でもてなすことができましたが、知名度はまだまだでコロナ明けの課題となっています。所内では利用者に対するビューティータッチセラピーを継続するほか、今後はドッグセラピーを行う予定です。またパワーリハビリは計画的に実施され、「足腰が～」と心配する家族から大変喜ばれています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「自らが受けたいと思う医療と福祉の創造」を理念に掲げ、地域行事への参加を通して地域交流をし、地域に根差す取り組みをしている。	理念は唱和を継続、昨年度からは「こやまケア行動指針」の読み上げを加えています。また法人ホームページに記載されるとともに新採者のオリエンテーション、中途採用者研修ではWeb上で理念への理解を求め、実践については個人面談において確認しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	これまでは、地域祭りへの参加や防災訓練の際に町内会の支援での炊き出しのご協力をお願いしている。	昨年度の事業所秋祭りには隣近所の皆さんも立ち寄っていただきましたが、コロナ禍で今年は開催を断念しています。また例年ならば、避難訓練にて炊き出しを執りおこなってくださる地域の婦人会は直接的な関わりは休止していますが、マスク150枚を進呈くださっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などを通じて、地域へ発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	セラピーを通じたサービス内容について発信し、助言をいただく事もあり参考にしている。	奇数月に隔月開催してきた運営推進会議は、コロナ禍で3月から中止しています。伊東市では「落ち着いたからの報告したらよい」と許容の案内があり、事業所では2ヶ月毎の活動内容のとりまとめて、まとめて行政に提出の予定です。	条例下の取決めであることから、2ヶ月分の活動内容をまとめて書面開催したものはメンバーに送付して意見を集めるとともに、特に行政にはは出席したことを示すものとして「書面確認した」返信をもらっておくと、なお良いと思います。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	伊東市高齢者福祉課担当者と密に情報共有や制度改定後の確認事項等を行っている。伊東市小規模施設系部会との連携もしている。コロナ禍において、運営実態について情報共有している。	コロナ禍前までは小規模施設系部会が3ヶ月に一度開催されて情報交換がありましたが、休止しています。現在は登録手続きをおこなうにしても「状況はどうか」「備品は足りているか」といったやりとりが必ずあり、会話の機会が増えています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事故対策委員会後開催する、身体拘束廃止委員会で身体拘束適正化に向けて協議し、職員の意識向上につなげている。	新採者には本件についての説明を必ずおこない、感想レポートを作成してもらうことで、理解度をチェックしています。3年前の法改正に伴う取り組みの整備が日を追って進められ、現在では委員会議事録や研修会の記録が一つのファイルに集約されていることが確認できました。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内・事業所内でも研修等を通じて理解を深めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今後対象となる可能性のお客様を通じて、成年後見制度について理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に高齢者の特徴や、認知症の方の生活上で起こりうる可能性のある事柄についてご説明し、不安を共有しながらリスク説明も交えて契約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	法人顧客満足度アンケートを年に一回実施し、施設を介さず法人へ直接回答をする仕組みとなっている。	法人からは顧客満足度アンケートでの回収率目標は70%と示されていますが前回は惜しくも60%、それが今回は90%と飛躍的に伸びています。職員が熱心に声をかけ、またサービス担当者会議も努めて回数を増やしたことが要因と思われる、取組みが功奏しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に2回個人目標も振り返りを行い、面談をする場を設けています。各ユニット会議にて職員の意見を吸い上げ運営に展開している。	「休憩室の畳のこあがりが出て居心地が悪い」との意見があがったことから、柔らかい素材に変えるとともにソファベッドも導入された例のほか、利用者に必要な電動いすやシャワーキャリー、平行棒の購入なども叶っており、風通しがよいことが覗えます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	休憩時間や休憩場所の整理、業務内容の見直しにより時間外の削減を行っている。 個人目標を設定し、評価をしやりがいを持って仕事ができるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	リーダー達で協議をし、職員研修への参加計画を立て参加を促している。今年度はコロナ禍の為オンライン研修が主流となり、より参加しやすくなった。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業部会議などを通じて得た情報を水平展開し、サービスの質の向上に努めている。 他事業所の運営会議等へも出向き、支援している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	関わりはじめの頃は特に職員との関係性作りに重点を置き、安心していただけるように取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族面談にて不安や困り事は聞き取りをしている。都度、お困り事や要望に対しては丁寧に伺っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	医療体制についてはご家族様と慎重に相談をし、訪問診療等を通じてご家族様の不安軽減に努めている。 希望があれば、訪問マッサージ等も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お客様お一人お一人の役割を持っていただくことで出来る事を増やし、やりがいを持って頂くようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	契約時に利用における留意事項等を説明し、ご家族様との協力支援の重要性を伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	併設のデイサービスをご利用されていたお客様が入所となる事もあり、デイサービスで築いた関係性が継続できるように支援している。	新聞好きな人4名が「ニュースが見たい」などと言合い仲良く廻し読みしていたり、編み物を続けている人もいます。また「一度は自宅に帰りたい」との願いは、本人が重度であったため法人職員と連携して実現させています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	体操やレクリエーション等を通じて一体感が生まれるように取り組んでいる。席の配置に配慮をし、関係性に気を付けている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	問い合わせがあった際は、法人内連携、地域包括との連携により支援にあたっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	居室担当を中心に、ご本人様・ご家族様の希望を受け、会議内で検討し対応している。	新規入居にあたっては本人、職員双方慣れるまで苦労はつきものですが、当事業所の場合は併設のデイサービスからのケースが多く、以前の担当者が直に朝礼でポイントなど説明してくれ、また本人も顔見知りの人たちに囲まれて最初から安心な様子です。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様とのやり取りから得た情報を参考に、対応している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	体調管理の為に日々のバイタルチェック表や医療連携簿等を通じて把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	気づきノートを用いて職員からの意見を収集し、ユニット会議で協議し計画作成に生かしている。	介護計画書は介護記録にパソコンでリンクしており、職員全体で確認できる仕組みがあります。また「毎月1名ピックアップしてサービス担当者会議を実施する」との意欲的な目標をもち、現在コロナ禍なものの電話でのやり取りで毎月継続できているケースもあります。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録上で実践状況を踏まえて、ユニット会議で協議し計画書作成に繋がっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	デイサービスと連携し、体操やレクリエーション等について水平展開している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域圏児との交流では、笑顔が溢れエネルギーをもらう事も多いが、現在はコロナ禍で叶わず、敷地内の散歩等で草花に触れ、穏やかに生活頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族様と相談の上、訪問診療で対応している。訪問看護との連携もあり安心につながっている。	訪問診療をおこなう協力病院を2か所もち、利用者はどちらかを選んでいて、現状在宅の頃のかかりつけ医を継続している人はいません。立ち合いはリーダーと決め、漏れがないよう配しています。専門医の通院の付き添いは家族です。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護、医療連携看護師との連携を通じて、必要に応じ主治医へ相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	所長・管理者・計画作成担当者を中心に入退院支援を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	適宜、必要なお客様をピックアップし月に一度程度、担当者会議を開催しご家族様と今後の方針などについて検討している。	先月まで3ヶ月連続で看取りがあり、職員は気持ちの休まる間もなく取組んでいましたが、無事お見送りに至っています。入居時には重度化の指針を提示しつつ、急変時や看取りにおける体制や方法を家族に説明のうえ同意を得ています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時対応マニュアルを掲示し、施設内でも勉強会を行い対応している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回防災訓練を行っている。町内会からの支援も頂いている。	年2回実施の法定訓練には消防署の立ち合いを求めたものの日程の都合が合わず残念な一方で、婦人部が炊き出しボランティアで参加くださっています。夜間想定と日中とで実施、なるべく新人職員や未経験の職員優先に担当を割り振って有事に備えています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	こやまケア委員会を中心として、こやまケア行動指針に沿ってお客様へもかかわり方について考え対応している。	「トイレの声掛けは耳元で」といった職員単位のマナーやエチケットのほか、シフトやオペレーションに及ぶ入浴時の同性介助など事務所全体で実践しています。また現場で適切な対応ができているかについてはユニット会議で振り返りの場を設けています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事の際、嗜好にも考慮し提供している。平行棒を導入し、歩行訓練希望者には安全配慮の上、訓練いただいている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	介護記録にサービス内容を記載し、お客様の生活ペース等を理解し対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人様の嗜好等に配慮し洋服などお客様と一緒に決めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	役割分担をし、食器拭きや洗濯物たたみなどを中心に行ってもらっている。	1月おせち料理、2月太巻き寿司、3月ちらし寿司と時節料理を欠かさず、また炊き込みご飯や豚丼等利用者からの人気が高いメニューは提供頻度を増やして食への歓びを盛り上げています。また利用者も一緒に手作り参加したケーキバイキングは楽しい思い出の一つです。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	介護記録にて管理し、共有している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自室の洗面所で実施している。ご自分で難しい方にはこちらで支援している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表にてパターンを把握し、誘導している。	排泄チェック表を備え、24時間の動きを把握できており、チェック表で排尿のタイミングを得て、リハビリパンツから布パンツへと向上した例もあります。また家族の要望で「日中は布パンツで過ごし、夜間はリハパンに戻す」ケースもあります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動量のアップ、食材等に配慮し工夫している。 必要に応じては栄養士に相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	お客様に合わせて対応している。2人介助が必要な方に対してはユニットで連携している。	2名対応が必要な人が6名とやや増えていますが、シャワーキャリーの導入で職員の介護負担ばかりでなく、利用者の安心も担保されています。また、利用者の中には、トリートメントと洗顔フォームを在宅の頃からの、馴染みのものを使い続けている人もいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	時間を限定せずに、皆で過ごす時間も大切にしながら一人一人に合わせた支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医療連携を通じて、特に排便コントロールに関しては主治医、訪問看護と連携し、慎重に行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員によるレクリエーションや趣味活動を行い気分転換出来ている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	現在はコロナ禍の為、敷地内の散歩等でリフレッシュいただいている。	昨年度よりユニットリーダーが外出担当となり、エンジンがかかった頃にコロナ禍となり、トーンダウンは否めないものの、正月の初詣や人気の少ない海岸などへと足を運び「できるだけ季節を感じてもらえるように」としていますが、大半は散歩に留まっています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望があった際は、ご家族様へ確認し施設より立て替え、お小遣いという形でご本人に渡し、買い物等楽しんでいただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には施設よりご家族様へ連絡を取り橋渡しとなっている。毎月のお便りの発送をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掲示物等で季節を感じていただけるようにしている。	これまでも換気には細心の注意を払ってきたことは職員の習慣にも定着していて、コロナ禍だからといって変化はありません。外出が減ったこともあって室内での目の保養に配慮し、展示コーナーには四季の移ろいを配し、ハロウィンなど行事に沿った掲示が施されています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを設置し、共有空間でもくつろげるような環境を整えた。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様が落ち着いて生活できるように馴染みの物を置いたりしている。	職員の発案で全員に座布団が用意されています。また「座布団を使うと座位が高くなり足も疲れるだろう」との気遣いから、合わせて足台も導入しており、利用者に大変喜ばれています。「無理せず移動ができるように」とリクライニングの車いすも購入しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る事はなるべく行って頂き、安全に行えるように危険個所の確認は職員が行っている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2290400080		
法人名	医療法人財団 百葉の会		
事業所名	グループホームわかば (2階ユニット)		
所在地	静岡県伊東市岡1293-3		
自己評価作成日	令和2年10月20日	評価結果市町村受理日	令和3年3月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kanitrue&JigyosyoCd=2290400080-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和2年10月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

デイサービス・居宅が併設している為、連携が取りやすい。
今年度は、コロナウイルス対策でデイサービスとの行き来は控えているが、イベント等は合同で企画している。デイサービス所属の栄養士も在中しているので、食事面でのサポートも強い。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

伊東市では居宅介護支援事業所、デイサービス、グループホームの併設施設がなく、其々の特色を生かした支援ができること、それらの連携が図られていることは貴重です。3事業所の協同事業である「認知症カフェ」は伊東市の広報にも紹介され、高齢者福祉課職員もプライベートで立ち寄ってくださり、栄養士の手作り洋菓子と所長の洪い蛇味線演奏でもてなすことができましたが、知名度はまだまだでコロナ明けの課題となっています。所内では利用者に対するビューティータッチセラピーを継続するほか、今後はドッグセラピーを行う予定です。またパワーリハビリは計画的に実施され、「足腰が～」と心配する家族から大変喜ばれています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「自らが受けたいと思う医療と福祉の創造」を理念に掲げ、地域行事への参加を通して地域交流をし、地域に根差す取り組みをしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	これまでは、地域祭りへの参加や防災訓練の際に町内会の支援での炊き出しのご協力をお願いしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などを通じて、地域へ発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	セラピーを通じたサービス内容について発信し、助言をいただく事もあり参考にしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	伊東市高齢者福祉課担当者と密に情報共有や制度改定後の確認事項等を行っている。伊東市小規模施設系部会との連携もしている。コロナ禍において、運営実態について情報共有している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事故対策委員会後開催する、身体拘束廃止委員会で身体拘束適正化に向けて協議し、職員の意識向上につなげている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内・事業所内でも研修等を通じて理解を深めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今後対象となる可能性のお客様を通じて、成年後見制度について理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に高齢者の特徴や、認知症の方の生活上で起こりうる可能性のある事柄についてご説明し、不安を共有しながらリスク説明も交えて契約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	法人顧客満足度アンケートを年に一回実施し、施設を介さず法人へ直接回答をする仕組みとなっている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に2回個人目標も振り返りを行い、面談をする場を設けています。各ユニット会議にて職員の意見を吸い上げ運営に展開している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	休憩時間や休憩場所の整理、業務内容の見直しにより時間外の削減を行っている。 個人目標を設定し、評価をしやりがいを持って仕事ができるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	リーダー達で協議をし、職員研修への参加計画を立て参加を促している。今年度はコロナ禍の為オンライン研修が主流となり、より参加しやすくなった。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業部会議などを通じて得た情報を水平展開し、サービスの質の向上に努めている。 他事業所の運営会議等へも出向き、支援している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	関わりはじめの頃は特に職員との関係性作りに重点を置き、安心していただけるように取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族面談にて不安や困り事は聞き取りをしている。都度、お困り事や要望に対しては丁寧に伺っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	医療体制についてはご家族様と慎重に相談をし、訪問診療等を通じてご家族様の不安軽減に努めている。 希望があれば、訪問マッサージ等も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お客様お一人お一人の役割を持っていただくことで出来る事を増やし、やりがいを持って頂くようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	契約時に利用における留意事項等を説明し、ご家族様との協力支援の重要性を伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	併設のデイサービスをご利用されていたお客様が入所となる事もあり、デイサービスで築いた関係性が継続できるように支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	体操やレクリエーション等を通じて一体感が生まれるように取り組んでいる。席の配置に配慮をし、関係性に気を付けている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	問い合わせがあった際は、法人内連携、地域包括との連携により支援にあたっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	居室担当を中心に、ご本人様・ご家族様の希望を受け、会議内で検討し対応している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様とのやり取りから得た情報を参考に、対応している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	体調管理の為に日々のバイタルチェック表や医療連携簿等を通じて把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	気づきノートを用いて職員からの意見を収集し、ユニット会議で協議し計画作成に生かしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録上で実践状況を踏まえて、ユニット会議で協議し計画書作成に繋がっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	デイサービスと連携し、体操やレクリエーション等について水平展開している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域圏児との交流では、笑顔が溢れエネルギーをもらう事も多いが、現在はコロナ禍で叶わず、敷地内の散歩等で草花に触れ、穏やかに生活頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族様と相談の上、訪問診療で対応している。 訪問看護との連携もあり安心につながっている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護、医療連携看護師との連携を通じて、必要に応じ主治医へ相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	所長・管理者・計画作成担当者を中心に入退院支援を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	適宜、必要なお客様をピックアップし月に一度程度、担当者会議を開催しご家族様と今後の方針などについて検討している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時対応マニュアルを掲示し、施設内でも勉強会を行い対応している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回防災訓練を行っている。町内会からの支援も頂いている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	こやまケア委員会を中心として、こやまケア行動指針に沿ってお客様へもかかわり方について考え対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事の際、嗜好にも考慮し提供している。平行棒を導入し、歩行訓練希望者には安全配慮の上、訓練いただいている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	介護記録にサービス内容を記載し、お客様の生活ペース等を理解し対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人様の嗜好等に配慮し洋服などお客様と一緒に決めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	役割分担をし、食器拭きや洗濯物たたみなどを中心に行ってもらっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	介護記録にて管理し、共有している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自室の洗面所で実施している。ご自分で難しい方にはこちらで支援している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表にてパターンを把握し、誘導している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動量のアップ、食材等に配慮し工夫している。 必要に応じては栄養士に相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	お客様に合わせて対応している。2人介助が必要な方に対してはユニットで連携している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	時間を限定せずに、皆で過ごす時間も大切にしながら一人一人に合わせた支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医療連携を通じて、特に排便コントロールに関しては主治医、訪問看護と連携し、慎重に行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員によるレクリエーションや趣味活動を行い気分転換出来ている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在はコロナ禍の為、敷地内の散歩等でリフレッシュいただいている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望があった際は、ご家族様へ確認し施設より立て替え、お小遣いという形でご本人に渡し、買い物等楽しんでいただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には施設よりご家族様へ連絡を取り橋渡しとなっている。毎月のお便りの発送をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掲示物等で季節を感じていただけるようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを設置し、共有空間でもくつろげるような環境を整えた。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様が落ち着いて生活できるように馴染みの物を置いたりしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る事はなるべく行って頂き、安全に行えるように危険個所の確認は職員が行っている。		